中村小学校 研究通信

チーム中小

令和３年１２月３日（金）

No.９　文責　宗﨑　伊与田

１０月２１日（木）は、上岡先生による国語科の研究授業でした。本単元は、高知市の潮江東小学校の５年生に向けて、四万十市の魅力的な文化を紹介するパンフレットを書くという単元ゴールを設定していました。授業と事後研究の様子をお知らせします。本時は、８/１３時間目です。

単元名　「わたしたちが伝えたい！自まんの四万十市」　　全１３時間
教材名　「和の文化について調べよう」　東京書籍　　５年２組　上岡　和也　教諭
身に付けさせたい力：引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く力

本時の板書 8／13

自分の伝えたいことと選んだ資料はつながっているかな。

自分のおすすめの場所が伝わるか友達に聞いてみよう。

授業者のリフレクションシートより

主・対・対話の質を高めるためには、対話する前に児童が聞きたいことを明確にもたせておくとよいとわかった。情報量が多いと対話しにくい場合があるので、教師が情報を事前に精選しておいたり、対話しやすいようにホワイトボードに貼る位置を工夫したりすることも意識したいと思った。

課題　・児童が本気になる課題を工夫するためには、言語活動が重要で、相手意識や目的意識をどのように設定するのかが大事だとわかった。また、単元に入るまでにも他教科とのかかわりで題材への意識を高めておくことや、単元に入ってからもタブレット（Meet)を用いるなどして相手意識や目的意識を高めておく工夫ができるとわかった。

見・考・児童自身が、自分が作った構成メモのこだわりやここは外せないというようなポイントを他の児童に語れるような授業づくりを目指したいと思った。そのためには、本時の授業の中で語れる場面を設定することはもちろんだが、普段の授業の中でも思いが語れる児童に鍛えていきたいと思った。

１　本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習の設定

〇子ども達が目的をもってできていた。
〇子ども達の学びの成長が見られ、学びに向かえていた。
〇思考スキルの活用（比較する・関連付ける）
▼文章ばかりにこだわっているグループがあり、文章だけでなく資料とのつながりがどうかを考えさせたかった。
▼4 人分見るのが、時間的に難しく、情報が多すぎていたのではないか。
▼グループの構成と個人の構成全体を見られるようにしたい。

２　児童が本気になる課題の工夫

〇児童にとって身近な題材で子ども達は関連付ける意識があった。
〇相手意識がよく、総合やふるさと教育につながっている。
〇他校とのリモート授業があったことで子どもの本気度につながっていた。

３　「言葉による見方・考え方」を働かせるための手立て

〇ホワイトボードで見合うことが、全体を捉えやすい。
〇グループの中には、資料と結び付けて考えている児童の姿も見られた。
▼情報が多かったため、情報整理の時間が必要であったのではないか。
▼文章だけでなく、資料も決めるということを中間評価で行うとよかった。
▼友達のアドバイスをもとに検討するところが本時の大事な学習であったため、時間配分が必要であった。

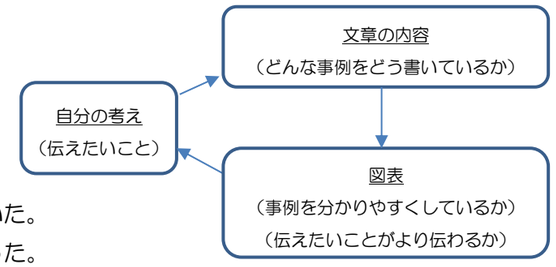
間　指導主事より(本単元･本時の学びのポイント)

〇単元構想、本時の学習の流れ

・国語科授業づくりの「資質・能力」「教材」「言語活動」の大事なポイントを押さえた単元構想であった。
・本時の流れが、
①問いをもたせる
②見方・考え方を引き出す
③見方・考え方を可視化
④焦点化した対話
⑤考えの再構築
⑥できるようになったことの自覚
と目指す資質・能力ベイスの授業展開となっていた。
・授業改善プランの取り組みにつながる授業であった。

〇対話の質を上げるために

・軸となるのは「自分の考えをもっているか」ということ。
・対話の質を上げるためには、児童が「見方・考え方」を働かせているかどうかを授業者が見取って評価することが大切。



今回は、目的・相手意識を四万十市の魅力を紹介するために、高知市の潮江東小学校の５年生にすることで子ども達が主体的に学習に取り組むことのできる、児童にとって本気になる課題となっていました。また、上岡先生の教師モデルや学習の進め方の手順など丁寧に授業をつくり、中村小学校の国語科の授業スタイルに沿う学習の流れとなっており、日常の国語科の授業づくりを振り返ることのできる研究授業となりました。

今回の学習は、本校の全国学力・学習状況調査結果の「読むこと」の課題の１つである「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけること」とつながるため大事にしたいところです。各学年で同じような教材はないかもう一度確認し、授業改善しながら子ども達の資質・能力の育成をしていきましょう！